

石川県立中央病院 整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 石川県立中央病院整形外科専門研修後の成果
3. 石川県立中央病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・専門知識の習得計画
 - ・専門技能の習得計画
 - ・経験目標(経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等)
 - ・プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・リサーチマインドの養成計画
 - ・学術活動における研修計画
 - ・コアコンピテンシーの研修計画
 - ・地域医療に関する研修計画
 - ・サブスペシャリティー領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画・専攻医の評価時期と方法・専門研修プログラム管理委員会の運用計画・プログラムとしての FD (Faculty Development) の計画・専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。また整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 石川県立中央病院整形外科専門研修後の成果

石川県立中央病院整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

3. 石川県立中央病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

石川県立中央病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「医学医療は最先端を、教育に関しては未来の整形外科を担う卓越したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。石川県立中央病院整形外科では、北陸地域の整形外科医療を支えてきたその経験と実績により洗練された研修内容を提供します。

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえたわが国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、石川県立中央病院整形外科には、脊椎、四肢関節、スポーツ医学、上肢・手外科、足の外科、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設は、救急医療・外傷、脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった約40におよぶ大学、施設、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

石川県立中央病院整形外科は、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されており、専攻医の皆様に素晴らしい研究環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。

4. 研修方法

専攻医および指導医マニュアルに関しては、整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 ホームページ） <http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>を参照。

4.1 基本方針:

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、石川県立中央病院(基幹施設)および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第三者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

① 専門知識の習得計画：本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

② 経験目標：経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を石川県立中央病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

③ プログラム全体と各施設によるカンファレンス：各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

④ リサーチマインドの養成計画：すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンスを年 1 回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑤ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医1人あたりの学会発表、論文等)：専攻医が学会発表年 1 回以上、また論文執筆を年 1 本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年 1 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑥ コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)：整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得させます。石川県立中央病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑦ 地域医療に関する研修計画：本プログラムの研修施設群は石川・富山・福井県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。整形外科診療や病病連携、病診連携を経験する

ことを目的に、指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院での研修を行います。すべての専攻医は医師不足地域 中小病院および医師不足地域中核病院に 3 ヶ月以上勤務します。

⑧ サブスペシャルティ領域との連続性について：整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの石川県立中央病院附属附属および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法：専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行い、専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた石川県立中央病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

② 専門研修プログラム管理委員会の運営計画：専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。石川県立中央病院整形外科に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。3月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。また必要時に臨時委員会を開催します。専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、石川県立中央病院整形外科に報告します。活動報告および研修プログラムは石川県立中央病院整形外科ホームページで公開します。

③ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画：指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。また指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④ 専門研修プログラムの改善方法：専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ② 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- ③ 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- ④ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- ⑤ 1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。以上 1~5 の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

石川県立中央病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3 「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。北陸の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。基幹病院のスケジュール、それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画と専門研修指導医一覧を下表に示します。

【石川県立中央病院整形外科週間予定表】

	朝	午前	午後
月	カンファランス、病棟総回診	手術もしくは外来	手術、
火	カンファランス	手術もしくは外来	手術 もしくは外来
水	カンファランス	外来もしくは手術	手術、スポーツ、足の外科外来
木	カンファランス	手術もしくは外来	手術、もしくは外来
金	術前カンファランス、病棟リハビリカンファランス	手術もしくは外来	手術もしくは外来、側弯症外来

【石川県立中央病院整形外科専門研修プログラム 専攻医ローテーション表の例】

	1(3)年目		2(4)年目		3(5)年目		4(6)年目	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
A 実践/リサーチ重視型（定員 1）	Ⅰ 群: 石川県立中央病院		Ⅱ 群: 一般/地域中核研修病院		Ⅰ 群: 高機能中核病院		大学病院	
B 地域/実践重視型（定員 1）	大学病院	Ⅰ 群: 石川県立中央病院		Ⅱ 群: 一般/地域中核研修病院		Ⅰ 群: 高機能中核病院		

基幹病院：石川県立中央病院

大学病院：金沢大学附属病院

大学病院では学術的な研修やそれぞれのサブスペシャリティーに特化した研修が可能になります。

Ⅰ 群：高機能中核病院群 (10施設)

Ⅰ 群の病院では、比較的稀な症例、大きな手術を必要とする症例、合併症の多い症例の研修や年間 1000 件以上の整形外科手術を行っている施設での研修が可能になります。

＜Ⅰ 群に所属する各病院＞

富山県立中央病院、福井県立病院、
金沢医療センター、済生会金沢病院、富山市民病院、厚生連高岡病院、
福井県済生会病院、市立砺波総合病院、福井総合病院
日本赤十字社医療センター（都市部）

Ⅱ 群：一般/地域中核研修病院群 (28 施設)

Ⅱ 群の病院では、外傷および各研修施設に特色のある専門分野の研修が可能になります。

＜Ⅱ 群に所属する各病院＞

金沢市立病院、金沢赤十字病院、浅ノ川総合病院、JCHO 金沢病院、
公立松任石川中央病院、小松市民病院、やわたメディカルセンター、
加賀市医療センター、芳珠記念病院、公立能登総合病院、恵寿総合病院、
KKR 北陸病院、木島病院、市立輪島病院、珠洲市総合病院、公立羽咋病院
富山県済生会富山病院、厚生連滑川病院、射水市民病院、八尾総合病院、富山県済生会
高岡病院、かみいち総合病院、公立南砺中央病院、
市立敦賀病院、JCHO 福井勝山総合病院、春江病院
横浜栄共済病院（都市部）、上越総合病院、舞鶴共済病院、

Ⅲ 群：小児整形研修病院群 (3 施設)

Ⅲ 群の病院では、小児整形外科や専門分野に特化した研修が可能になります。

金沢こども医療福祉センター、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、
福井こども療育センター

（本プログラムのローテーション、研修可能分野、取得単位の例は新患数、手術数の変動、指導医の異動等に伴い変更となる場合があります。）

【研修可能分野】

[illegible]

【専門研修施設群 専門研修指導医 一覧】

指導医名	施設名	指導医名	施設名	指導医名	施設名
安竹秀俊	石川県立中央病院	中村琢哉	富山県立中央病院	三崎智範	福井県立病院
堀井健志	石川県立中央病院	丸箸兆延	富山県立中央病院	上田康博	福井県立病院
高田宗知	石川県立中央病院	橋本典之	富山県立中央病院	村田淳	福井県こども療育センター
菅沼省吾	石川県立中央病院	澤口毅	富山市民病院	五之治行雄	福井県済生会病院
		五嶋謙一	富山市民病院	山内大輔	福井県済生会病院
土屋弘之	金沢大学医学部附属病院	鳥嶋康充	厚生連高岡病院	林正岳	福井総合病院
村上英樹	金沢大学医学部附属病院	岡本春平	厚生連高岡病院	勝尾信一	福井総合病院
加畑多文	金沢大学医学部附属病院	橋本二美男	富山県リハビリテーション病院・ こども支援センター	水野勝則	福井総合病院
山本憲男	金沢大学医学部附属病院	峰松康治	富山県リハビリテーション病院・ こども支援センター	山門浩太郎	福井総合病院
出村諭	金沢大学医学部附属病院	藤井秀人	富山県済生会富山病院	安藤智哉	福井総合病院
林克洋	金沢大学医学部附属病院	吉田晃	富山県済生会富山病院	尾島朋宏	福井総合病院
加藤仁志	金沢大学医学部附属病院	伊藤貴明	富山県済生会富山病院	田尻和八	私立敦賀病院
中瀬順介	金沢大学医学部附属病院	南里康弘	厚生連滑川病院	柳下信一	私立敦賀病院
吉岡克人	金沢大学医学部附属病院	林博志	厚生連滑川病院	北野慎治	JCHO 勝山病院
武内章彦	金沢大学医学部附属病院	田中一範	厚生連滑川病院	岡野智	春江病院
楫野良知	金沢大学医学部附属病院	西田英司	八尾総合病院	渡部公正	上越総合病院
松原英憲	金沢大学医学部附属病院	高木泰孝	砺波総合病院	相場知宏	上越総合病院
多田薫	金沢大学医学部附属病院	山田泰士	砺波総合病院	野口学	舞鶴共済病院
池田和夫	金沢医療センター	江原栄文	砺波総合病院		
納村直希	金沢医療センター	毛利良彦	射水市民病院		
金澤芳光	JCHO 金澤病院	林美希	射水市民病院		
木村弘明	金沢赤十字病院	金粕浩一	富山県済生会高岡病院		
横川明男	石川県済生会金沢病院	南部浩一	富山県済生会高岡病院		
森永敏生	石川県済生会金沢病院	酒井康一郎	かみいち総合病院		
山城輝久	石川県済生会金沢病院	三浦利則	公立南砺中央病院		
西村立也	石川県済生会金沢病院				
徳海裕史	浅ノ川総合病院				
森川精二	金沢市立病院				
小林尚史	KKR 北陸病院				
島洋祐	KKR 北陸病院				
桜吉啓介	金沢こども医療福祉センター				

野村一世	金沢こども医療福祉センター
岡田和子	公立松任石川中央病院
小林歩	公立松任石川中央病院
畑雅彦	小松市民病院
勝木保夫	やわたメディカルセンター
中村立一	やわたメディカルセンター
西村一志	やわたメディカルセンター
堀本孝士	加賀市医療センター
長嶋恵子	加賀市医療センター
松田英三	芳珠記念病院
伊井定雄	公立能登総合病院
岡山忠樹	公立能登総合病院
津山健	恵寿総合病院
宮田岳人	恵寿総合病院
庭田満之	私立輪島病院
大成一誓	珠洲市総合病院
武内尚人	木島病院
北岡克彦	木島病院

6. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である石川県立中央病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。上記目的達成のために石川県立中央病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会および、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

② 基幹施設の役割

基幹施設である石川県立中央病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。石川県立中央病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 石川県立中央病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。石川県立中央病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である石川県立中央病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

石川県立中央病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次 2名 合計 8 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準から下記のようになり、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次 2名、合計 8名と設定しました。

	施設名称	都道府県新患者数		リウマチ・外傷・スポーツ・小児・腫瘍								計
				脊椎	上肢・手	下肢	外傷	マチ	スポーツ	小児	腫瘍	
基幹施設	石川県立中央病院	石川県	1859	186	60	157	531	4	13	0	36	987
関連施設	金沢大学附属病院	石川県	1335	187	46	256	58	7	99	31	161	845
	金沢医療センター	石川県	2331	24	91	79	419	11	2	1	23	650
	金沢市立病院	石川県	1923	44	26	3	155	1	0	0	3	235
	珠洲市総合病院	石川県	1276	2	21	13	116	3	0	0	3	158
	金沢こども医療センター	石川県	377	0	0	0	0	0	0	27	0	27
	小松市民病院	石川県	5000	15	9	20	139	0	1	0	2	186
	加賀市医療センター	石川県	1652	6	32	25	227	0	3	0	3	297
	金沢赤十字病院	石川県	1149	10	17	57	153	0	1	0	4	242
	恵寿総合病院	石川県	1699	11	60	45	182	0	0	0	0	298
	公立松任石川中央病院	石川県	2851	89	30	16	288	0	0	0	9	432
	木島病院	石川県	10803	140	97	378	202	1	594	1	8	1421
	公立能登総合病院	石川県	1835	58	36	68	299	1	0	0	1	463
	やわたメディカルセンター	石川県	5950	75	245	668	212	5	55	2	21	1283
	KKR 北陸病院	石川県	1400	8	211	76	37	0	42	0	2	376
	石川県済生会金沢病院	石川県	1974	271	49	105	266	9	2	0	8	710
	浅ノ川総合病院	石川県	436	35	7	13	178	0	0	0	13	256
	市立輪島病院	石川県	2370	8	42	17	114	1	2	0	9	193
	芳珠記念病院	石川県	322	27	21	24	147	0	2	0	1	222
	JCHO 金沢病院	石川県	1145	21	8	13	90	0	5	0	3	140
	富山県立中央病院	富山県	1755	136	125	347	590	11	50	0	27	1286
	射水市民病院	富山県	2307	27	13	17	217	5	0	0	1	280
	富山県済生会富山病院	富山県	2230	190	51	179	220	0	2	0	15	657
	富山市民病院	富山県	1074	15	61	228	464	14	47	0	0	829
	かみいち総合病院	富山県	1719	10	26	40	114	0	0	0	8	198
	厚生連滑川病院	富山県	1835	74	74	109	302	1	3	0	18	581
	富山県リハビリ病院・こども支援センター	富山県	668	0	107	42	99	10	0	24	15	297
	公立南砺中央病院	富山県	1590	43	69	80	191	0	0	0	12	395
	富山県済生会高岡病院	富山県	2411	281	28	256	134	0	0	0	3	702
	市立砺波総合病院	富山県	3333	164	63	69	442	1	16	1	7	763
	八尾総合病院	富山県	1380	3	39	30	112	0	0	0	5	189
厚生連高岡病院	富山県	1662	161	115	126	394	3	11	0	3	813	

JCHO 福井勝山病院	福井県	2602	12	36	35	165	2	6	0	11	267
福井県立病院・こども療育センター	福井県	3525	122	16	98	463	5	0	22	24	750
福井総合病院	福井県	4991	200	381	259	267	35	70	6	12	1230
市立敦賀病院	福井県	1549	1	38	62	209	0	2	0	2	314
福井県済生会病院	福井県	2100	141	134	139	502	2	14	0	25	957
上越総合病院	新潟県	1696	46	38	44	203	0	3	0	4	338
舞鶴共済病院	京都府	846	23	55	38	222	3	5	0	15	361
春江病院	福井県	3591	0	237	69	198	0	11	3	56	547
公立羽咋病院	石川県	3109	97	24	36	128	1	0	0	1	287

【応募方法】 応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

石川県立中央病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

病院HP：

URL: <http://pref.ishikawa.jp/ipch>

臨床研修プログラムHP

【必要書類】

- 1 申請書(ダウンロード)
- 2 履歴書(ダウンロード)
- 3 医師免許証(コピー)
- 4 医師臨床研修修了登録証(コピー)
- 5 健康診断書

【募集期間】 7月末～ 11 月 30 日

【問い合わせ先】

〒920-8530 石川県金沢市鞍月東2-1

石川県立中央病院整形外科

担当: 安竹秀俊、堀井健志 (研修プログラム統括責任者)

Tel: 076-237-8211

Fax: 076-238-2337

Email: yasutake1026@gmail.com